

旬刊

経営速報®

経営者・経営幹部のための実益情報誌

2008年 **3/25** 号

No. **1591**

- | | |
|--|--|
| ■経速センサー 2 | ■激動する金融機関と企業経営 (147)
信頼性の高い先物市場を
吉田和男 8 |
| ■経営者のいま打つべき手
中国進出のリスクヘッジ
～従業員定着率の高さが魅力のタイ・
ベトナム～ 田辺次良 3 | ■成長する中国経済を支える女性たち (3)
〈最終回〉
上海女性と日本女性の相違点
池田恵美 10 |
| ■「お金より名誉」でやる気を引き出す! (12)
〈最終回〉
若者の早期離職を防ぐために
太田肇 4 | ■経速サマリー 12 |
| ■働く人たちのメンタルヘルス (33)
事例に学ぶ (3)
～物 ^{フツ} は仏 ^{フツ} なり～ 武藤清栄 6 | ■提言
働く人の「心の病」に
目配りせよ 田中佳珠宏 13 |
| | ■タナベセミナーご案内 14 |

働く人たちの

メンタルヘルス



東京メンタルヘルスアカデミー
所長 武藤 清栄

33. 事例に学ぶ(3) ~物^{ブツ}は仏^{ブツ}なり~

統合失調症とは

厚生労働省の『患者調査』によると、日本の精神障害者の数は右肩上がりが増え続けている。1999年は約240万人、2002年は258万人、そして05年にはついに303万人に達した。

働く人たちの場合は「うつ病」「不安障害(ノイローゼ)」「心身症」といったストレス性の疾患が多いものの、入院患者に限れば圧倒的に「統合失調症(精神分裂病)」が多い。統合失調症にかかる危険率は、およそ0.8%とされている。この病気は感情や思考、知覚、意欲、自我意識などの精神機能に統一性が失われるため、日常生活に適応できなくなる。

統合失調症は、脳に何らかの器質的な病変(器質性精神病)があるわけではなく、脳以外の身体疾患に随伴して起こっているもの(症状精神病)でもない。自閉気質などの遺伝負因や脳内神経伝達物質、ドーパミンの異

常、ストレスなどが原因として指摘されているが、まだ明確にはなっていない。こうしたことから、精神機能の変化に起因すると言われ、「機能性精神病」に分類されている。うつ病・躁うつ病・心因性(環境と性格に起因)精神病などはすべてこの分類に含まれる。

統合失調症は、精神障害の中でも進行性で人格が特有の荒廃状態に陥るため、回復しにくく慢性化することが多い。症状としては、①妄想(根拠のない考えや決めつけ)、②幻覚(本来見えないものが見えたり、聞こえないものが聞こえたりする)、③解体した会話(話が頻繁に脱線したり飛んだりする)、④バラバラで意味不明な行動や奇異な言動、⑤能面のような表情、思考の貧困、意欲が欠如し閉じこもる傾向(①~④は「陽性症状」、⑤は「陰性症状」)が挙げられる。

以上のうち二つ以上が当てはまり、それが1カ月以上続く場合はこの病気が疑われる。統合失調症は、妄想を中心とする「妄想型」、

解体した会話や感情の乏しさを中心とする「解体型」、突然動かなくなったり奇異な言動や姿勢をとり続ける「緊張型」、さまざまな症状や行動異常が混在する「鑑別不可能型」などに分けられる。

いずれにしても幻覚や妄想がひどく、問題行動が顕在化する急性期の場合は入院を余儀なくされる。治療は薬物療法が中心で、「ハロペリドール」「クロロプロマジン」といった抗精神病薬が用いられる。鎮静薬としては「カルバマゼピン」「ベンゾジアゼピン系」「非ベンゾジアゼピン系」などを用いて興奮や不安・焦燥を鎮める。薬物治療で症状消失や軽減が起きるが、その後は慢性期に移行することが多い。急性期では陽性症状、慢性期では陰性症状が中心になる。しかし慢性期でも、陽性症状が再燃することがある。

統合失調症は、型にもよるが10代の後半から20代にかけて発症するケースが多い。寛解(きちんと治癒はしていないが、症状が軽減や消失)した時は、時期を見てリハビリテーションや職場復帰訓練を行う。しかし現実には、職場復帰をしても高度な知識やスキルを必要とする仕事に就くのは困難なことが多い。

ブツブツ男の事例

W氏(23歳、男性、独身)はパソコンに向かってブツブツと独り言を言うことが多かった。しかし上司をはじめ、周囲の人はW氏に関与しなかった。それはW氏が普段だれとも口をきかず、交流を持つこともなかったためだ。周囲も彼を誘うことを避けていた。

そんなある日、W氏は「ちくしょう！」と大声を出して机を叩いた。周囲はびっくりして彼の様子をうかがっていたが、まもなくW

氏は天井を見上げて「ハッハッハッ」と笑いはじめた。チームリーダーのY氏が恐る恐る近づき「どうしたの？」と尋ねると、W氏は「神様と話をしている」と答え、続けざまに「神様はこの会社を必要としていない！」と叫びながらパソコンや電話機を放り投げた。周囲はリーダーの指示で健康管理室の保健師に連絡を取り、救急車を呼んだ。その間、W氏がひどく暴れたので、同僚たちは一丸となって力づくで押さえ込んだ。

結局、W氏は会社の近くにある大学病院の精神科に入院することになった。家族(W氏の父母)との面談によると、幼いころから優等生で友人はおらず、1人で何かに没頭することが多かったという。最近では「ある女性に裏切られた」と愚痴をこぼしていたと言う。

リーダーの話によると、W氏の仕事ぶりは正確で速く、指示されたことはほとんど完璧にこなしたそうだ。しかし3カ月ほど前から、顧客がW氏に根拠のないクレームを付けはじめ、対応に苦慮していたと言う。チームの人間関係は希薄で、お互いが支え合うといった雰囲気はほとんどなく、周囲はW氏のことは見て見ぬふりをした。Y氏もどう声をかけたら良いのかためらっていたが、W氏がブツブツ言いはじめた辺りで対応すべきだったと、自分のマネジメントのあり方に後悔の念を持った。

しかし不思議なことに、W氏の入院騒ぎがあって以来、同僚同士が職場で談笑するようになり、人間関係も深まりはじめた。そしてこれを機に、この会社でもメンタルヘルスの教育研修を実施することになった。

そんな折、W氏からY氏に手紙が届いた。そこには「物^{ブツ}言^{ブツ}わぬは仏^{ブツ}なり！ ブツブツツ…」とだけ書いてあった。